

歯科医師会 コラム



歯と口の健康週間が始まります～最近話題の口腔がんについて～

口腔がんとは口の中にできるがんの総称です。進行するとしゃべりづらくなったり、食べづらくなったり、顔の変形をきたすこともあります。口腔がんは、舌、歯肉、唇、頬の内側に発症します。舌がんは口腔がんの4割～5割を占め、舌の側縁という横の部位や裏にできやすいです。

原因は外部からの持続的な刺激によることが多く、放置した虫歯のどがった部分が当たって受ける刺激や、かみ合わせの不具合により何度も同じ場所を誤って噛んでしまう刺激、入れ歯の不具合による刺激が原因になることもあります。舌はこうした刺激が加わりやすく、がんができやすいのです。他の原因としては、長年の飲酒、喫煙により口腔の粘膜が劣化することにより、より高い確率でがん化すると言われています。ニコチン、タールなどの発がん物質が口腔内の粘膜細胞を傷つけ、がんになりやすくするのです。お酒を飲みながらたばこを吸うとその危険性は

さらに高まります。アルコールによって発がん物質が溶け出し、大量に口の中に付着することが原因であると言われています。このことから生活習慣の見直しは大切です。

がんの大きさが2cmより小さく、首のリンパ節に転移がない場合の5年生存率は90%以上なので、早期発見、早期治療が大切なのは言うまでもありません。そのためには①口内炎が2週間以上治らない②口内炎に似たものまたは少し赤くはれているものがあるが痛くない③噛んでできた傷が治らない④味がしない、唇・舌にしびれ感がある⑤しこりのように固くなっているなど、少しでも気になっている事があれば歯科を受診ください。東久留米市歯科医師会所属の歯科医院は近隣の大病院と連携をしていますので、症例によっては速やかに紹介できる体制を整えています。痛くないからと放置しないで、ご相談ください。

(東久留米市歯科医師会)